

## 第一席

### こんぺいとう 第十七号

愛知県立常滑高等学校

私たち常滑高校文芸部は、毎週月曜日、水曜日、金曜日の週三日間、小説、詩、エッセイ、短歌、俳句、川柳などの創作活動を行っています。また、定期的に新しい企画に挑戦することで、自身の能力を高め、広げることが出来る環境が作られています。部員たちの作品はコンクールに応募するだけではなく、それらを載せた部誌『こんぺいとう』は年に二回発行しています。そして、自身の一年間の作品を総集した個人誌の作成もしています。

今年の創作テーマは「イロトリドリ」です。無限にある色のように、部員たちの個性が最大限に活かされたユーモア溢れる部誌になっています。特別企画である卒業生アンソロジーでは文芸部の歴史が感じられる、一風変わった楽しみ方もできます。



今後も新しいことに挑戦し、経験や失敗、努力などを糧にして、より魅力的な作品を作成することができるように、活動を続けていきたいと思っています。

(二年 蜂須賀すず)

## 第二席

### AWAY 2021 AUTUMN

愛知県立豊橋西高等学校

豊橋西高等学校文芸部は、週に三回、俳句・短歌などの創作を中心に活動を行っています。言葉を使って表現する楽しさを大切にしながら、皆で切磋琢磨しています。

また、年に二回文芸部誌を発行しています。文化祭で発行する本誌は、生徒及び一般の方々に販売しています。

今回の部誌のテーマは「豊橋」です。僕たちが住んでいる豊橋を深く追究することで、いつもの風景が少し違って見えてきました。そんな気持ちを表現した詩や、豊橋の名所を随所に散りばめた小説、俳句、短歌。そして、豊橋の写真（本校写真部撮影）に合わせて作成した俳句や短歌などをお楽しみください。また、企画では、市役所や文化財センターなどに伺ったインタビュー記事も掲載されています。様々なジャンルで表現された僕



たちの豊橋への愛を、どうぞお楽しみください。

(二年 中村 颯汰)

## 第三席

### 岡東文芸部誌 第五号 秋桜

愛知県立岡崎東高等学校

私たち岡崎東高校文芸部では、週に三回、総勢十名の部員で活動しています。

今回の部誌『秋桜』では、ありのままの自分を、詩・俳句・小説・イラスト・写真という形で表現しました。また、表紙は私達の思う日本と文芸とを一つの絵として完成させました。

この『秋桜』を読んでもらうことで、私達部員それぞれの思いが伝わると思いますが、ぜひこの部誌を読んで、私達の思いを感じてください。

(二年 河合 風芽)



## 第三席

### イナカプレス

愛知県立成章高等学校

成章高等学校文芸部は、平日授業後、散文・詩などの創作を中心に活動を行っています。昨年よりも部員が増えにぎやかになった部室で、日々創作活動に励んでいます。

また、年に一回「成章祭」と呼ばれる文化祭に部誌『イナカプレス』を発行し、生徒及び一般の方へ配布しています。

『イナカプレス』は今年一三八号になります。今回のテーマは「日記」です。各々が持つ日記のイメージを膨らませた個性豊かな「日記」が詰まった一冊になっています。部員一同心を込めて丁寧に作りました。例年よりもボリュームのあるイナカプレスをどうぞお楽しみください。

(二年 谷口 萌)



## 夢幻 三十三号

愛知県立碧南高等学校

読んだことのない世界に一冊だけの小説を。私たち碧南高校は年に二回部誌を発行しており、その歴史は十五年にもなります。この部誌「夢幻」は毎回部員、顧問含め全員でテーマを一つ決め、執筆、印刷、製本等全ての作業を部員全員で協力して創り上げていきます。夢幻に載っている小説は、「まだ誰も読んだことのない小説を」という各部員の想いがあり出来上がった作品です。小説は作者の自由な世界です。誰も読んだことのない小説、それは私たちの空想の世界なのではないでしょうか。その思いを伝えることのできる「夢幻」。私たち文芸部員の空想の世界を知ってもらえる「夢幻」。



この「夢幻」に込められた想いをどう捉えるのかは読者にしか分かりません。是非手に取りお読みください。

(三年 榊原 萌子)

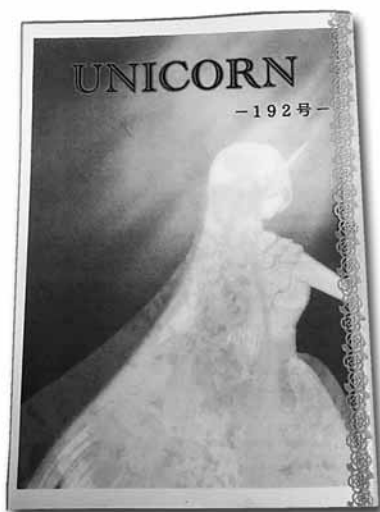
## ユニコーン 一九二号

愛知県立安城高等学校

文芸部の活動として、小説・詩・短歌・俳句の創作をしています。特に九年前からは俳句作りを力を入れて、全国大会でも入賞をするまでになりました。

文芸誌「ユニコーン」の創刊は、一九八六年（昭和六十一年）です。今年からは全員共通のテーマを決めて、それに沿ってそれぞれが自分の得意分野の作品を掲載しています。その結果、それぞれの個性がいかに発揮された楽しい文芸誌ができました。

(二年 眞島 志歩)



# Literature Club

愛知県立岩津高等学校

私たち岩津高校文芸部は、一年に三回部誌を発行しています。今回の文化祭発表部誌のテーマは「炎上」「雨」「自由」の三つでした。同じテーマで書いても書いた人が違うとイメージが一八〇度変わって、何度読んでも面白い部誌が出来上がりました。

新しい試みとして今年から俳句班が立ち上がりました。俳句を作ることが普段の生活であまりない事だったので、いつもより季節の移ろいを感じることができました。この活動も文化祭で句集として発表することができ、とても嬉しかったです。

これからも多くの事に触れていき、常に素晴らしい作品を作っていく予定です。

(二年 大野 愛華)



# 文芸幸田 三十五号

愛知県立幸田高等学校

私たち幸田高等学校文芸部の部誌のテーマは「星」と「夜」です。今年は昨年度よりも感染予防対策を行いながら蒲郡吟行や岡崎城吟行など、校外での活動を実施することができました。部活の仲間とともに自然と触れ合いながら俳句を詠むことの楽しさをそれぞれが感じ、改めて日々の活動が行える有難さを知る吟行となったと思います。

これらの吟行を経て制作したのがこの文芸幸田三十五号です。部員一人一人の思いが詰まった作品集となっていますので、読む機会があれば、最後まで楽しんで頂けたら幸いです。

(二年 難波 晴菜)



# 令和三年度 蝶蝮夏号

名古屋市立向陽高等学校

向陽高等学校文芸部では、年最大八種類の部誌を発行しています。その中で今回は季刊誌『蝶蝮』の令和三年度夏号を紹介いたします。

弊誌では、連載小説「けいちちゃんの放課後」や企画「御伽噺リメイク」、それに加えて各々の部員が自由に執筆した作品を掲載しています。

連載だけの企画だの、その言葉だけで少し束縛感を抱いてしまうかもしれません。しかし、その制約の中に見出される自由さこそが我々向陽高校文芸部の創る、見どころの一つであると確信しています。

(二年 辻 優斗)



# 淡雲苑 オリジナル号

名古屋市立桜台高等学校

桜台高校文芸部は、季節の節目や学校行事に合わせて毎年合計九冊ほど、部誌「淡雲苑」や他部活動との共同作品集を発行しています。部員が創作活動を通して触れることのできる文学のジャンルも、多岐にわたります。

「淡雲苑」は、小説、詩、短歌、俳句など、一人ひとりの今一番書きたいものに寄り添ってくれます。その自由と責任が、読み応え抜群の満足感のある一冊にしているのだと思います。

部員も増え温かさが増しましたが、批評会では以前からの鋭い着眼点も遺憾なく受け継ぎ、各々が真摯に作品と向き合いました。

先生や先輩方のお力添えを頂き、形になりました。誰かの毎日に彩を添える事ができたならば、部員一同たいへん嬉しく思います。

ぜひ一度手に取って、楽しんで頂けたら幸いです。

(二年 河合佑璃菜)



# COSMOS

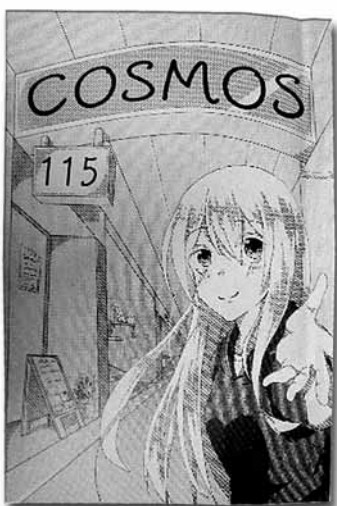
愛知県立時習館高等学校

時習館高校文学部は「れっつ、りてらちャー！」を合言葉に、日々、創作活動に勤しんでいます。また、ちよつとしたゲームを用いることで、楽しみながら語彙力や文章構成力などのスキルを高めています。先輩後輩関係なく部員たちの仲が良く、笑顔の絶えない部活動です。

文学部誌である『COSMOS』は自分たちの手で作り上げる、文学部員の努力の賜物といえます。小説だけでなく、詩や俳句、短歌、イラストなどなど様々な作品が掲載されています。また、テーマに合わせて考えた下の句に部員それぞれで上の句を考える付け句という企画を毎年おこなっていたり、今年は漢詩の作品に挑戦したり、放送部の朗読劇の台本を提供したりと、COSMOSの進化は留まるところを知りません。

これからも、部員一同切磋琢磨して、高めあって行きます。

(二年 松本 悠汰)



# UNIVERSE

愛知県立豊田東高等学校

私たち豊田東高校文芸イラスト部では、毎週月曜日と木曜日に決められたテーマに沿ったイラストを描き、批評しあうことで画力向上に努めています。また、今年は希望者がいないのですが、小説などの文芸作品の執筆活動も行っています。文化祭の際には、テーマに沿った部員一人ひとりの作品を収録した部誌を制作し販売しています。

今回の部誌のテーマは「星座」です。一人ひとりがテーマから想像を膨らませて描いたイラストがたくさん収録された自信作となっています。あなたもこの部誌を手にとって星を、宇宙を感じてみませんか。

(二年 伊藤麻菜未)



# 私たちの輝ける場所

## ~ Club activities ~

愛知県立豊橋東高等学校

部活動——それは、学生時代に先輩や後輩と交流できる場であり、一人の個性が現れる場でもあります。そんな部活動をテーマに作ったのがこの部誌です。実は今回、私たちは制作にあたって新しい試みに挑戦しました。一つ目は取材です。自分が題材にしたいと思う部活動に足を運び、見学という形をとって、その部活動の空気を肌で感じてきました。部によって活動場所や活動内容が異なり、それに伴って雰囲気も変わってくるため、取材を通して発見できたことが多くありました。二つ目は助言会です。今までは印刷前に他の人の作品を読むことはありませんでした。しかし、今回は印刷前に助言会という場を設け、他の人の作品を読んで、感想や改善点などを話し合いました。自分では気付けなかった点を指摘されてはつとしたり、他の人の作品の良さを深く知ったりすることができました。この部誌はたくさんの方の協力を得て作り上げたものです。協力してくだ

さった方々に感謝するとともに、私たちの小説やイラストによって多くの読者に笑いや感動を届けられたら嬉しいです。

(二年 水野 亜美)

